

第 2 学 年 学 級 活 動 指 導 案

日 時 平成25年6月10日(月)第5校時
学 級 2年
授業者 T1 T2

1. 題材名 やさいのひみつ（好き嫌いなく食べよう）

2. 指導の立場

(1) 題材について

食事は、健康な体づくりに欠くことができないものである。けれども、子ども達の食生活の実態は、肉やファーストフードなどの好きな献立のときはたくさん食べ、そうでない魚や野菜は少ししか食べない傾向がある。しかし、望ましくない食生活であっても、見た目には健康体であることも多いため、なかなか望ましい食生活に改善しようとする自覚がもてない。

そこで、自己の食生活を振り返り、好きなものばかり食べていることや嫌いな野菜が多いという課題があることに気づかせたい。そして、元気な体づくりには食べ物が大きな役割をもち、特に野菜には体の調子を整える働きがあることを指導する必要がある。

2年生では生活科の「やさしい大好き」の学習において、ミニトマトや自分の育てたい野菜を育てる体験学習を行っている。また、国語科の「かんさつ名人になろう」では、育てている野菜をていねいに観察し分かりやすく記録を書く学習にも取り組んでおり、野菜に興味をもって栽培・観察を行っている。そこで、本物の野菜にさわったり、試食したりする体験を通して、さらに野菜に興味をもたせ、夏野菜には体を冷やす働き、冬野菜には体を温める働きなどそれぞれの季節に応じた働きがあることを伝える。そのうえで、いろいろな食べ物を食べることが大切であることを知り、毎日の食事に出された物は残さず食べようという意欲を育てていきたい。

（２）児童の実態について

2年生の児童は、子どもらしく体を動かすことや外遊びを好み、好奇心旺盛で昆虫や魚などを好んで育てている。給食に関しては、少食、偏食の児童が多く、給食の時間を楽しみにはしているが、残さず食べようという意識が低い。そのため、配膳後、「そうだん」をして苦手なものを減らす児童が多くいる。家庭ではその傾向がさらに強く、嫌いなものは減らしたり残したりしているようである。また、児童が嫌いなものは献立にないこともあったと考えられる。

児童の実態やアンケートの結果は、次のようである。

給食は	残さず食べる	9	人
	たまに残すことがある	9	人
	苦手な物を減らして食べる	5	人
食べ物の好き嫌いが	ない	2	人
	少しある	16	人
	ある	5	人

嫌いな食べ物ベスト 7 (23人中・複数回答)

ピーマン（16人） なす（12人） しいたけ・ネギ（10人）
にら（9人） トマト・グリーンピース（7人）

家で嫌いなものがでたとき	残さず食べる	・ ・ ・ ・	1 2	人
	減らして半分は食べる	・ ・	1 0	人
	ほんの少しだけ食べる	・ ・	1	人
	全 部 残 す	・ ・	0	人

児童のアンケート結果や給食の残菜から、嫌いなものは野菜やきのこに多いことが分かる。嫌いな食べ物が出たときでも、頑張って食べよう、残さず食べようと考えている児童もいるが、実際には減らしたり、残してしまったりしている実態がある。その理由としては、美味しくない。食べると気持ちが悪くなる。などである。

このように、児童の食生活は、自分の嗜好のままに食事をとっているといえる。そこで、本時の学習を通して栄養面や体・体力づくりを考えて食事をとることができる児童に育てていきたい。

3. 研究主題に関わって

食の楽しさや大切さに気づき、よりよい食生活を生み出す子の育成

研究仮説

給食の時間や学級活動、教科指導、総合的な学習など全教育課程で食に関する指導に取り組むことで、児童が食に対する関心を高め、よりよい食生活を目指して実践に移すことができるであろう。

《 学級活動 》 研究の視点 2 生活実践力につなげるための学習過程の工夫

(1) 児童の食に関する関心を高め、学ぶ意欲や必然性をもたせる課題づくりの工夫

児童の食に関するアンケートを行い、自分の食生活に関心をがもてるようにしたり、その結果発表の際「はてなBOX」を活用することにより、身近な野菜への関心を高めたい。また、ある日の給食の残菜の写真を提示し、自分たちの給食の食べ方の問題点から必然性のある課題づくりができるようにする。

(2) 児童の思考を深めるための課題追究の工夫

①児童の思考を深めるための担任と栄養教諭によるTT授業の工夫

健康と食事の関係の話や野菜の働きの説明などを、専門的な知識をもった栄養教諭によって分かりやすく指導することで、野菜に関する正しい理解を知り、望ましい食生活をめざすことができるようにする。

③意欲的な追究や生活実践につなげるための終末の工夫

児童の苦手なピーマンやなすなどを使ったピザやちぢみを実際に食べてみることによって、調理の仕方でも抵抗なく美味しく食べることができることを体験し、実践への意欲をもたせたい。

(3) 学んだことを自分の生活に活かそうとするための実践カードの工夫

学習したことを家の人に伝える手紙を書く活動を位置づける。学習したことを自分の言葉で語ることを通して、実践への意欲化を促すことになると考える。さらに、家の人からの返事をもらうことによって、家庭での子どもの食生活を見直す機会となり、学校や家庭での働きかけによって望ましい食生活の継続・習慣化につなげていきたい。

4. 題材の目標と評価の観点

食生活を振り返ったり、野菜を食べることがどのように体にいいのかわかることを通して、野菜を進んで食べようとする意欲をもつことができる。

- ・自分の健康のために、進んで野菜を食べようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・自分の食べ物の好き嫌いを振り返り、野菜の大切さについて考え、健康のために進んで野菜を食べることができる。(思考・判断・実践)
- ・自分の健康のために、いろいろな野菜を食べることの大切さを理解している。(知識・理解)

食に関する指導目標は、「食事の重要性」と「心身の健康」とする。

☆2年生の「食に関するめざす児童の姿」は、「栄養バランスの取れた食事の大切さを知り、意識して食事することができる。」とする。

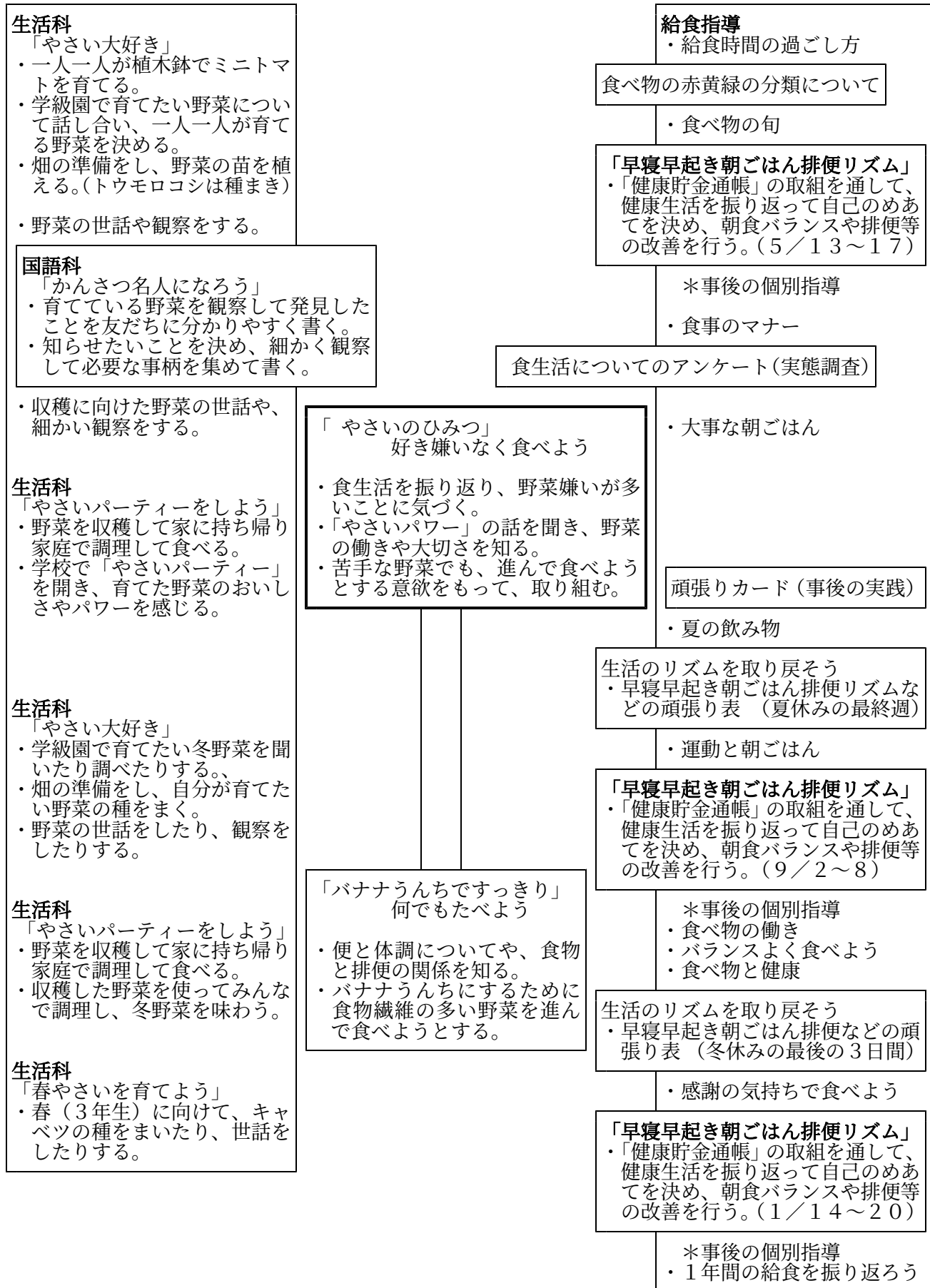
- ・食生活アンケートや「はてなBOX」のクイズを通して、食べ物に興味・関心をもつことができる。(食事の重要性)
- ・野菜を使った献立の試食を通して、嫌いな野菜への親しみをもつことができる。(心身の健康)

5. 食に関する指導：教科・他領域との関連 第2学年

【教科】

【学級活動】

【他の領域・家庭生活等】



6. 本時の目標

野菜を摂ることの大切さを考える活動を通して、野菜を摂ることが「病気に負けない体をつくる」「体を冷やしたり温めたりする」「排便を促す」ことになることが分かり、元気な体をつくるために野菜を進んで食べようとする意欲をもつことができる。

7. 本時の展開

過程	ねらい	学 習 活 動	指導・援助 および ※人権教育の観点	【評価規準】 ◎つけたい力（心）
導入	自分たちの食生活の課題に気づくことができる。	1. 食生活アンケートの結果を発表し、好きな食べ物ベスト3と、嫌いな食べ物ベスト7を発表する。 ・野菜が嫌いな子が多い。 ○給食で嫌いな野菜を減らしていますがこのままでいいのでしょうか。 ・好き嫌いをしてはいけない。 ・野菜を食べなさいと言われる。 ◎どうして野菜を食べないといけないのでしょうか。	T1 ・アンケートに出てきた食べ物のカードを示し、好きな食べ物や嫌いな食べ物を発表する。 ・嫌いな食べ物ランキングの結果から、野菜が苦手な子が多いことに気づかせる。	T2 ・児童の反応やつぶやきをメモし、説明の時に関連づけられるようにする。 資料① 食に関する好き嫌いアンケート結果
課題をもつ	野菜への興味をもち、その働きや大切さを理解する。	2. 「はてなBOX」のクイズで、実物を五感を使って体験することを通して、野菜によって形や色、におい、味、食感が違うことに気づかせたり、いろいろな野菜の働きを教えたりする。 ・「はてなBOX」に入っている野菜を、手で触ったりにおいをかいだりして、名前を考える。 ・野菜の特徴や働きの説明を聞く。	・家庭でも、野菜を食べなさいと言われる体験などから、本時の課題につなげる。	資料② 給食の残菜（野菜）の写真
追究する	給食には多くの野菜が使われていることに気づき、偏食をしてはいけないことが分かる。	3. 給食でも多くの野菜を使って、元気に活動できるようにしていることに気づかせる。 ○給食は、みんなが元気に活動できるように考えて、いろいろな野菜を使っていることを話す。 ・畑で育てている野菜にどんな世話をしているか思い出し、自分達もいろいろな食べ物を食べることで元気に育つことに気づく。	・野菜を手にした時の子どものつぶやきを板書し、印象づける。	資料③ はてなBOX ピーマン・なす ねぎ・きゅうり
意欲をもつ	毎日の食事で、苦手な食べ物でも残さず食べようとする意欲をもつ。	4. 元気のもと入りピザ（ピーマン、なす、トマト）とチヂミ（ねぎ、にら）を食べ、元気な体をつくる。 ・おいしい。元気がでたみたい。 ・嫌いなピーマンやねぎも、頑張って食べることができた。 ・家でも作ってもらって食べたい。	・給食の献立を示し、使われていた野菜を発表できるようにする。	資料④ やさしいパワーの絵
		5. 今日勉強したことを、家の人に手紙を書いて知らせましょう。そして、「がんばりカード」で1週間頑張らしましょう。 ＜家の人への手紙＞ ・おかあさん、今日学校でやさしいパワーのべんきょうをしたよ。 なつやさいには、あついときに体をひやすはたらきがあるんだよ。だから、きゅうりやトマトをいっぱいたべよう。	・野菜を育てるのに、肥料や水などいろいろな必要なことから、いろいろな野菜を食べることが大切なことを関連づける。	資料⑤ やさしい入りちぢみ（ねぎ・にら）とピザ（ピーマン・なす・トマト）
			【評価規準】 野菜の働きや大切さが分かり、元気な体をつくるために野菜を進んで食べようとしている。 （関・意・態） 人権教育の観点 ※生活を振り返り、野菜に対する苦手意識を改善しようとすることができる。 （自己啓発力）	
			・学習をもとにして、自分の食生活を改善しようと考えた児童を指名する。 ・野菜が苦手な児童が食べることができた姿を価値づける。 ・「がんばりカード」により実践の意欲化と継続化を図る。	・野菜の働きや大切さを思い出させて手紙を書けるようにする。 ・野菜の働きについて理解し、元気な体つくりのためにいろいろな野菜を摂ることを書いている児童を紹介し価値づける。